

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



“テロリストに乗っ取られた”JR東日本の真実”

「マングローブ」ダイジェスト版 第9回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

「偉大な指導者」の墮落

「国鉄分割民営化後、旧動労から東労組やJR総連などが引き継いだ不動産などの資産は総額30億円ともいわれています。しかしそれが本当は、いくらあったのか、現在、どれくらいなくなってしまったのか、それは松崎にしかわからないのです」（嶋田邦彦氏）

次期委員長の最有力候補と目されていた嶋田氏（02年当時、東労組副委員長）は、松崎による独善的な組合運営や、組合私物化を批判したため、松崎から「組織破壊者」のレッテルを貼られ02年10月に辞任する。そして嶋田氏は06年6月、他の東労組元幹部とともに、「東労組を良くする会」（賛同人2000人）を設立。松崎や東労組現執行部との全面戦争に突入するのだ。

「あえて過去形で言わせていただくと、私にとって松崎明という人物は偉大な指導者でした。私が動労の本部役員時代はそれこそ、雲の上の人でした。しかし、東労組に会長職を作った時点で、彼の腐敗が始まったのです。つまり、彼は院政を敷き始めたわけです。態度も傲慢になり、『ゴルフは平日に行くべきだよ』などと、平気で言うようになった。そしてそのころから、組合の私物化も始まるのです。東労組顧問だった02年7月、ついに彼は暴走しました。かつて東労組を分裂させようと画策した組合員を、会社が彼に内緒で昇格させたことを知って激怒。『松田出てこい！大塚出てこい！』と喚いた末に、『順法闘争だ！』と叫んだのです。…この松崎の発言に対し、当時、企画局長だった阿部克幸氏が『そんなことをすれば世論の猛反発を買い、東労組が壊れてしまう』と異を唱えました。私もそれに賛同したため『組織破壊者』のレッテルを貼られてしまいました。…私が勤務していた東労組中央本部は、JR東日本本社ビルと隣接するJR新宿ビルの13階にあります。その13階から地上に降りて初めて、それまで『世界に冠たる』などと誇ってきた東労組の“異常性”に気づいたのです」

（嶋田邦彦氏）

組合員が、他組合員に所属する仲間と交流しただけで、「組織破壊者」のレッテルを貼り、集団で取り囲み、吊し上げを行う東労組。その東労組の異常性が公になったのが、「浦和電車区組合脱退・退職強要事件」だ。

「そもそも7人が、Y氏を退職にまで追い込んだのは、松崎の指示があったからこそ。松崎から『積極攻撃型組織防衛論』を叩き込まれている“松崎チルドレン”は、彼の言葉を積極的に解釈し、それを忠実に実行する。だから松崎は、わが身を守るために、7人の冤罪を必死で唱え続けているのです」

（嶋田邦彦氏）

「積極攻撃型組織防衛論」とは、内部に敵を作り、その敵を徹底的に叩くことによって組織を強化し、外部の攻撃から組織を守るという理論だ。

【マングローブ（講談社）P.122～P.128】